

ざっくポラン 第5号

このコーナーでは、住民と役場職員の協働参画によって作られた宇美町生涯学習ボランティア専門部会から発展したボランティア広報会議のメンバーがボランティア活動をしている方を応援し、ボランティアをしている人を応援し、ボランティアの「はじめの一歩」のきっかけになるような記事を掲載していきます。

今回は、「読書の秋」にちなんで、子どもたちの読書活動を支援している「読み聞かせボランティア」の方にスポットをあてて紹介します。

おはなし会「とんとん」 境 邦子さん

平成6年に絵本好きなお母さん達が集まり、し〜ず・うみ図書室などで手作りの大型絵本やパネルシアターなどを使って、絵本を広める活動を展開。町立図書館開館後は、毎月第2・第4水曜の10時からおはなし会を開催。

「とんとん」の由来は、ドアを叩いて、おはなし会をひらくなどの意味から。会員は4名。



読書の輪が家庭・地域へとひろがる街！

昨年、「うみ・みらい館」が開館して、大型紙芝居、大型絵本などの数が以前よりも格段に増え、また、おはなし会専用の部屋もできて活動が充実しています。おはなし会に来てくれる人もどんどん増えていて、先日などおはなしのへやに入りきれないほどでした。

これからは、なかなか図書館に来られない男性やお年寄りの方などがもっと図書館の本を読めるようになると思います。例えば、図書館の本を借りて来た人が1冊はお父さん、もう1冊はお爺ちゃんへと本を借りて帰るような光景があふれるようになるともっと素敵な「読書の街」になるのではないかと思います。



継続は力なり・・・



小さいころからお話を自分で作るのが好きで、絵本作家になることが夢でした。そういうことに関わっていけたらいいな！と考えていたときに誘われたのが「とんとん」でした。「とんとん」の手作りで行う活動に感動して・・・以来、平成8年から今日まで1度も体調不良でおはなし会を休んでいないことを誇りに思っています。

大切なのは好きなことを少しずつでも続けること・・・

これまでのおはなし会では、どんなに悪天候でも参加者がいなかったという回は1度もありません。楽しみに待ってくれる人達や「おもしろかった」などの感想をくれる子どもたちが活動の源です。それに何より自分自身がやってよかったと思える「楽しさと充実感」があるからこそ続けてこれたと思います。そして、これからも続けていきたいと思っています。ご家庭でも自分が読んで感動したり、いいと思う本を子どもたちに読んであげたり、すすめてあげるといいと思います。



ポラリコ屋から



そらだ！図書館に行ってみよう！



たくさんある！みんなにも貸りていこう。



なんぼか、みんなと読書の夜、いいな。

編集後記：

宇美町では昨年度から文部科学省の指定を受け、「子ども読書の街」を目指した取り組みを進めています。先日境さんが小学校へ読み聞かせに行かれた時に、ある児童が「大きくなったら 読み聞かせのひとになりたい」と言ったそうです。とっても素敵な話に感動しました。

